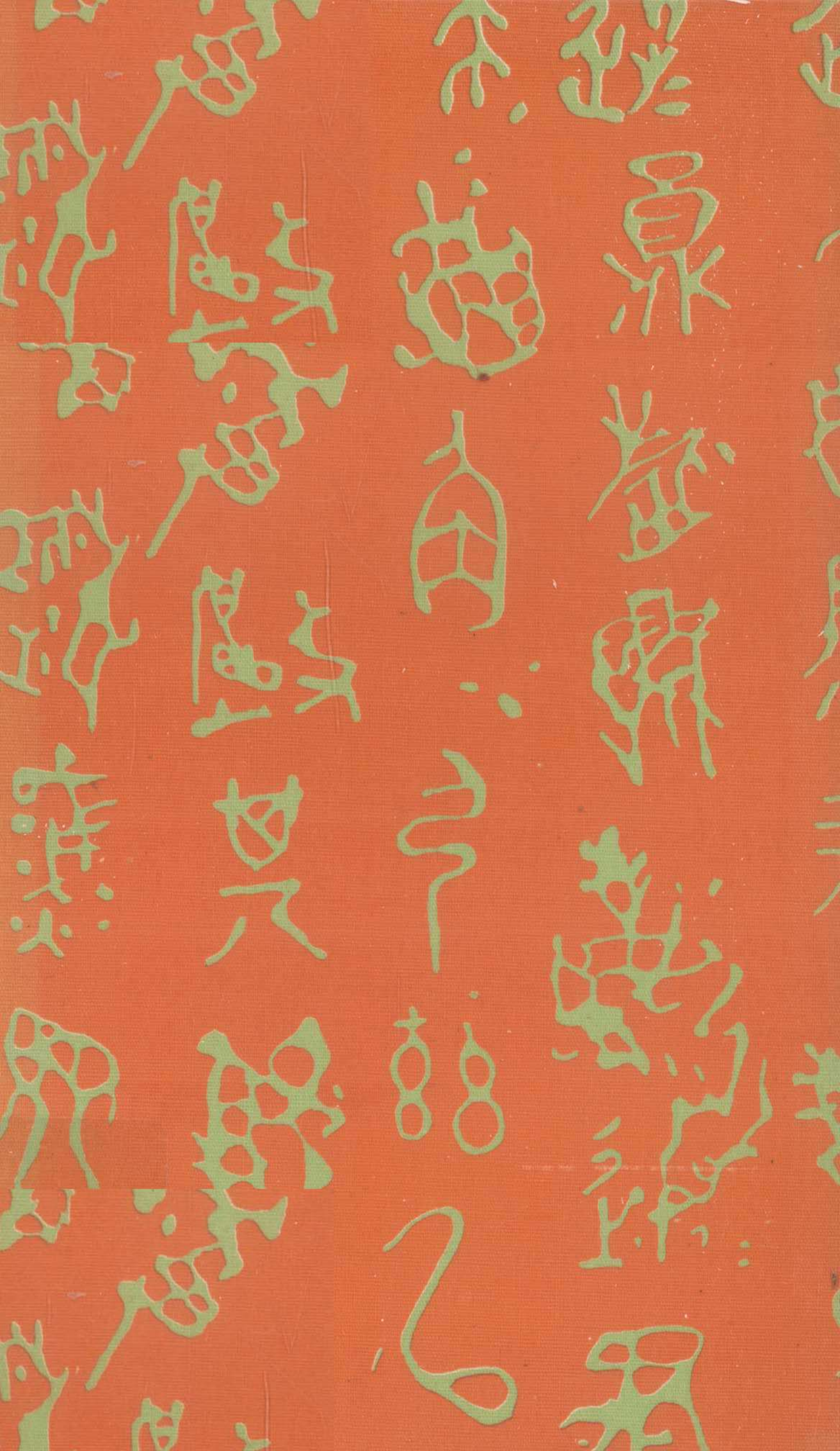




漱石全集
第三十一卷

書簡集

五

全三十四卷 第三十一回配本

昭和三十三年八月二十七日 第一刷發行 © 漱石全集 第三十一卷

定價 一五〇圓

著者 夏目漱石

發行者 岩波雄二郎

印刷者 山田一雄



發行所

東京都千代田區
神田一ツ橋三ノ三 株式會社

岩波書店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

精興社印刷・三水舎製本

目次

大正三年

三

大正四年

六

大正五年

一八一

補遺

二四五

書簡番號索引 五

二五一

書簡番號總索引

二五九

解說

二七九

注解

二九一

大正三年

一六八六

一月五日 月 後5—6 牛込區早稻田南町七より 大阪

市東區農人橋二丁目池崎忠孝へ

拜啓 あなたが書いてくれた私に關する評論は御手紙の届いた大晦日の晩に讀みました。夫迄はいそがしくて見られませんでした。あなたの論文は長いものです、又骨の折れたものです。あなたは外の人よりも私に讀んでもらひたいといふ以上あの論文を書いた動機のうちには私の爲に書くといふ好意が含まれてゐます。私は自分の爲にあなたが是程と勞力と時間を使つて下さつた事を感謝します。

近頃アセニームに私の事を書いたものがあります。

私は自分のやうなものをわざ／＼英國へ紹介してくれたブライアンといふ人の好意に對して謝さなければならんと考へてゐます。然し彼のいふ所は如何にも空虚です。一冊も私の本を讀んでゐずに好加減な人から好い加減な事を聞いて夫を英文にしたものですから私は夫以上に難有いとも何とも思ひません、然しあなたは私の書物を現に讀んでゐるのです、さうしてそれをあなたの頭でまとめたのですから 其點で私は御禮をいはなければなりません（生田長江氏の^{*}かいた漱石論もブライアンの毛の生へたものに過ぎません）

あなたは私を大變ほめてくれました、あなたは御世辭を使つた積ではないでせう。あなたの眼に私があゝ映ずるなら私はえらい人かも知れません。然しあなたとの纏め方は（私の褒貶を離れて見て）まだ足りません。書き方の割合には中の方が薄い心持がします。夫から書き方に大きく見えて其實確かりしてゐない所があります。私は褒められ足りない不満足を感じるのである

りません、あなたの纏め方や、あなたの書き振にまだ足りない所があると思ひます。然しあなたは全然眞面目で書いてゐるのですから私が今かう云つても恐らく通じないかも知れません。私は私のいふ事が今にあなたに通じる時機^原がくる事を希望しかつ信ずるのであります。文學に専門の大家やなどの論文を見ても外部は如何にも立派さうに見えながら其實少しも立派でないのが澤山あります。あなたは此方面を専門する人でないから、いつやめるか分らないと思ひますが、もし長く文壇に關係しやうと思ふなら、私のいふことを參考にして下さい。さうして是等の大家の行く方向とは反對の方へ歩いて下さい。これが私のあなたに云ひ得る最上のものです。御禮をいふ傍ら失禮も云ひます。年長者の言葉と思つて許して下さい。以上

一月五日

夏目金之助

赤木柊平様

一月六日 火 後0—1 牛込區早稻田南町七より 本郷

區駒込西片町一〇大塚保治へ

啓 心の花新年號わざ／＼の御寄贈難有う。君の大西君に對する追回談を早速讀んだ。僕は太西君を知らないから君の評價が當つてゐるか居ないか丸で分らない。然し君の頭にある大西君は明瞭に虚飾なく秩序正しく出てゐる。あれは談話だけれども君が訂正したからあゝきちりと出來上つてゐるのだらうと思ふ。あのスタイルは甚だ好いと思ふ。あれで澤山だから君は美學に關する論文でも最近歐洲文藝史でも其一部分でも公けにしたら何うだらう。大學でばかり講義をするよりも廣く天下の人に見せる方が僕は賛成だ。どうせ君は學者なのだからいくら著作を輕蔑したつて學者を輕蔑したつて今更始まらない以上學者としての活動をしたらいゝではないか

大西君の好きなジニアルといふ字を見た時一寸驚ろいた。ジニアルといふ字の意味は知つてゐる積であるがそれをジニアスの形容詞に使つたのは殆んど僕の記憶にない。それで僕は念のために字引を引いて見た。

すると成程大西君の用ひる意味の例が出て來た。然し *high* とかいてあつた。で僕も落ち付いて。大西君が滅多に用ひられない意味で此形容詞を使はなければならぬ程ジニアス(天才の人)を認めなかつたかと思ふといかに彼が人を別にした作物や論議丈に重を置いたか分つて面白い。巢鴨のイデオットをサブライムだと云つて感心する所などは甚だ面白い。僕は太西君の萬事が此例に出てゐる様な調子であつたら「う？」と思ふ。然し僕は彼を知らないのだから多く云ふ權利を有たない 以上

一月六日

金之助

保治様

一六八八

一月七日 水 後0—1 牛込區早稻田南町七より 府下

下澁谷一二三小泉鐵へ

昨日あなたへ行人を一部送りました。ノア々々の御禮として記念の爲に上げたのだから受取つて下さい。所がわからないから洛陽堂宛にしました。今日あなたから手紙が來たので始めて御住所を知りました。惜しい事をしました。

實は昨日あなた「の」白樺^{*}に出た小説を読みました。半分以後は呼吸がつまるやうな心持がします。まことに悲しいものです。さうして美しいものです。私は個々の人が個々の人に與へられた運命なり生活なりを其儘にかいたものが作品と思ひます。何となればそれに接した時自分に與へられないものを見出して啓發を受けるからであります。あなたの書いたものも私にとつてその一つであります。

氣に障るかも知れませんが一口遠慮のない事を云ひます。女主人公の所へくる女友達の手紙の文句にはみんな何かこびりついてゐます。もつとすつきりしたものが欲しいと思ひます。感情をいつわつたものではありませんが、感情に訴へ過ぎるのでせう。女主人公自身の残した日記のうちにも其痕迹があります。あなたの心を傷けるためにいふのではないから勘辨して下さい。

あなたにもあの小説に似た悲しい事實の記憶が新しいやうに人から聞きました。さういふ氣分の所へ行人などを送るのは邪魔になる丈でせう。然し讀まんでもいいのです。たゞ受取つて置いて下さい。

私はからだは今の所悪くありません。あなたは熱が出たさうだがよく御用心をなさい。此間大塚にあつたらあなたの事を話してゐました。以上

一月七日

夏目金之助

小泉 鐵様

一月七日 水 後0—1 牛込區早稻田南町七より 本郷

區駒込西片町一〇畔柳都太郎へ

近頃は不勉強にて外國のものを讀まず、佛語と獨乙語の稽古のために雑誌などを見るけれどもそれすら思ふやうに行かんで自分も恐縮してゐます。そこで君の手紙にあるミス^{*}ヂユリアもゼストロンガーも知りません、彼のブルー^{*}ブツクも解りません。然し是は聞いて置きたいから一寸教へて下さい。メンデリズムの方は殆んど無知識だが是は一寸伺ふに時間がかかるから聞かんでもよろしい。

僕^{*}の講演にあるイミテーションとインデペンデンスはいゝ對語でないかも知れません。然しあなたのいふ類型個型には仰の通り餘程縁の近いものです。私はあれから演繹して類型個型の二文字を點出しそれからクラシシズム ナチュラリズム ロマンチシズムの關係

に及ぼさうと思つてゐたのではありませんが頭のなかにはさういふものが今でも往來してゐます。いつかエラボレートして見たいと考へます。

僕の講演を私立學校を休んでまで聞いて呉れた君にまだ一言の謝辭も述べないのは甚だ濟まないこゝに改めて感謝の意を致し、又あの講演が私立學教^原の教授を已めてまで聞く價值のなかつた事を御詫び致して置きます。 匆々

一月七日

金之助

芥舟様

一六九〇

一月十一日 日 後0—1 牛込區早稻田南町七より 芝

區三田四國町二、一號小宮豐隆へ〔はがき〕

カブキハ行ツテモイ、ガアンマリ氣ハ進マナイ、サウ芝居バカリ見ルノハ鼻ニツク。モシ行ケバ僕一人デス、妻ハ行カナイトイフ。此間ノ奇々怪々タルモノヲ

二度見ルト思フトアマリイ、氣もしない。 以上

一六九一

一月十三日 火 後0—1 牛込區早稻田南町七より 本

鄉區駒込西片町一〇畔柳都太郎へ

拜啓ストリンドベルヒのものは一冊も讀まず英譯は近頃澤山出るけれども名前を忘れてしまふ故つい伺ひました。御返事に對して御禮を申します。メンデリズムに就ての御教示も御面倒でしたらう難有う。あれは餘程前に聞きましたね、たしか君から聞いたんぢやないかと思ふ。然し其時から面白いといふ丈で感動しなかつたのみかくだくしくて覺える氣にならなかつたのでつい忘れてしまつたのだと思ひます。然しあいつは君簡單すぎて容易に人間の精神杯には應用出來ないでせう。そこ迄メンデリズムが進歩すれば大變なものはありませんか。實驗心理で發見した事は精神界の極めてカタツパシで夫でぐんぐん全體が押せるものでな

いと同じぢやありませんか。従つて僕はメンデルズム杯と文藝などゝは今の所到底結び付けて考へられるものでないと考へてゐますがね。メンデルズムで説明の出来る文藝上のフェノメノンが有つたら是非氣が付いた時知らして呉れ玉へ。其時は大變利益をうけるだらうと考へます。僕は自分で文藝に携はるので文藝心理を純科學的には見られない。又見ても餘所々しくとてもそんなものに耳を傾ける氣がしない。僕のはいつでも自分の心理現象の解剖であります。僕にはそれが一番力強い説明です。若しそこに不完全なものがあればそれは心理現象そのものゝ複雑から來るので方法のわるい點からくるとは考へられません。もしメンデルズムが非常に進歩して御前の文藝上の作物はAとBとCと……とからの遺傳がかうなつて出て來てゐると科學者から説明されても僕は僕の頭で自分を解剖して（不完全な解剖でも）いやさうぢやないと斷言するかも知れません。どうでせう。然し文藝で新らしいといつ

ても空論だメンデルズムの遺傳法で來るのだといふ君の主意と意味が僕には徹しないので議論が矛盾になつてゐるかも知れません。新らしいといふのは俗語ですが其俗語のうちに自ら科學的に翻譯し得る意味が籠つてゐます。それを明かに道破し得た時にメンデルズムが文藝に口を出す權利が始めて出てくるのではありませんか。至つて不秩序で失禮。

臨風と御光來を願ひます。此次の土曜は駄目です。若し時を極めてくるなら飯でも差上げてゆる／＼御話をしたい如何でせう。以上

一月十三日

金之助

芥舟様

一六九二

一月十三日 火 後0—1 牛込區早稻田南町七より 横

濱市元濱町一丁目一渡邊和太郎へ

拜啓

此間行人を一部送りましたが届きましたらう。三十部も四十部も署名してゐるうちに送つたか送らないか解らなくなつてしまひます。石井柏亭にわざ／＼斷りを云つてやつたら先方から本は慥かに届いた何かの考違だらうなど、云つて來ました随分毫碌してゐます。

それは諸置舊冬御配慮を願つた宏徳會の件其後同會より岡田耕三を本年一月から會員にしてやるといふ手紙が來ました是で本人も安心して勉強が出來ます御骨折に就ては私から感謝致します渡邊君に御會の節はどうぞよろしく願ひます早速御禮を申上げるべき筈の處ごと／＼で後れて濟みません。實は此事も或は年賀狀の表に附記して御禮を述べたかも知れませんが賀狀を出す時は書物をやる時よりも減茶々々ですから或は失念したかも知れません。今改めて御禮を申上げたいと思ひます 匆々

一月十三日

夏目金之助

渡邊和太郎様

一六九三

一月十四日 水 後0—1 牛込區早稻田南町七より 麴

町區内山下町一丁目一東洋協會内森次太郎へ

御手紙拜見しました「素人^{*}と黒人」を御ほめ下さつて難有う御座います、幅物を持つて御還りださうです。が拜見したいものです。霽月にやつた墨竹は其時は可なりの出來と思つたが今もう一遍見ないと何とも云へません、本人がいゝと思つて表装するなら格別それではあればそれには及びません、あなたに頼まれた達磨はあれぎりですが外に色々かきました私の上げてほしいと思ふものゝうちで思召に叶ふものがあるなら達磨の代りに上げてでもよろしう御座います右迄 匆々

一月十四日

夏目金之助

森 圓月様

一六九四

一月十四日 水 後3—4 牛込區早稻田南町七より 高

田市横町森成麟造へ

御無沙汰をしました此間は海老と笹飴をありがたう
何も上げるものありませんから行人を一部呈上致し
ます御受取を願ひます。杉本さんは歸つて來ましたね
私は音樂會で一遍電車の中で一遍會ひました然し患者
としてはまだ交渉がありません。まあ仕合せなんでせ
う。柏戸^{*}は本場所を休んでゐますね。強くなつたやう
です。以上

一月十四日

夏目金之助

森成麟造様

一六九五

一月十四日 水 後3—4 牛込區早稻田南町七より 府

下西大久保六六戸川明三へ

拜啓其後は久しく御目にかゝりません御健勝の事と
存じます私も變りはありません。

今度私の行人が出版になりましたに就いて一本を差
上たいと思ひ小包で差出しました御受取を願ひます。

行人の出てゐるうちは時々御ほめの言葉を頂戴しまし
たのを記憶してゐます。それで感謝の記念に御送り致
します 右迄 匆々

一月十四日

夏目金之助

秋 骨 様

一六九六

一月十八日 日 (時間不明) 牛込區早稻田南町七より

新潟縣糸魚川山崎良平へ

拜啓良寛詩集一部御送被下正に落手仕候御厚意深く
奉謝候上人の詩はまことに高きものにて古來の詩人中
其匹少なきものと被存候へども平仄などは丸で頓着な
きやにも被存候が如何にや然し斯道にくらき小生故し
かと致した事は解らず候へば日本人として小生は只今
其字句〔の〕妙を諷誦して満足可致候上人の書は御地に

ても珍らしかるべく時々市場に出ても小生等には如何とも致しがたかるべきかとも存候へども若し相當の大きさの軸物でも有之自分に適〔當〕な代價なら買ひ求め度と存候間御心掛願度候右御禮旁御願迄 勿々頓首

一月十七日

夏目金之助

山崎良平様

一六九七

一月二十一日 水 後5—6 牛込區早稻田南町七より

本郷區駒込西片町一〇畔柳都太郎へ〔はがき〕

拜復二十四日御兩君の御出を待ちます、粗飯を差上度其つもりで御出下さい、但しとくべつに何もなし西洋人に呼ばれたと同じ事です

一六九八

一月二十一日 水 後8—9 牛込區早稻田南町七より

府下下澁谷一二二小泉鐵へ〔はがき〕

拙著を再度御讀み下さった由それにつき色々の御感想ありがたく伺ひました、水原ふぢ子といふ人の原稿は決して急いで入用ではありません、ゆつくり御とめ置き下さい

一六九九

一月二十四日 土 前10—11 牛込區早稻田南町七より

府下巢鴨町上駒込三三四野上豊一郎へ

拜復今日は宅で畔柳と笹川とを呼んで夕飯を食ふ約束があるので謠には出られません 折角の招待まことに残念です 坂元が隅田川をやるなら脇の語で威嚇してやりたいが已を得ない 妻は晩に森田のところの踊の浚に行かなければならないから是亦行かれませんか 此間もらつた粕漬は大變うまかつた又くれたまへ 勿々

一月二十四日 金之助

豊一郎様

一七〇〇

一月二十四日 土 後1—2 牛込區早稻田南町七より

金澤市茨木町四五大谷正信へ

拜啓御惠贈の魚罐入にて本日到着ありがたく御禮申上候まだ見た許で何の魚とも判然せず大方ふなだらうと存候 近頃は雪で嘸御寒い事と思ひますが東京は幸好天氣がつゞいてゐます然し寒氣は随分です 時節柄御身體を大切になさい 御禮迄 頓首

一月二十四日 夏目金之助

大 谷 様

一七〇一

一月二十四日 土 後1—2 牛込區早稻田南町七より

鹿兒島市上龍尾町九三野間眞綱へ

拜復今度の爆發では實際びつくりした新聞が大袈裟なのか事實がひどいのか何しろ驚ろかされたが電報が

不通といふので安否を問ひ合せる譯にも行かず困つてゐたのです。夫でも返電がきて無事とあるので安心した夫から手紙も來た 随分不安の事だつたらうと思ふがそんな事に出會ふのも生涯の經驗としては再度となといふ意味で面白い氣が大分ある出来れば其時に鹿兒島にゐてあとから其時の様子を書いて見たいと思ふ マードツクさんも無事だらうと思ふもしあつたら宜敷いつてくれ玉へ皆川君も無事でよかつた 僕は十二日はたしか芝居に行つてゐたと記憶する其時君等が逃げ出してゐやうとは氣がつかなくつた 先は御喜びまで 匆々

一月二十四日 金之助

眞 綱 様

一七〇二

一月三十日 金 後10—12 牛込區早稻田南町七より 本

郷區向ヶ岡彌生町三増田方林原(當時岡田)耕三へ

あたまがわるくてまた學校を休んでゐるさうぢやないか、夜寐られなけ〔れ〕ば眠藥を買ふ金位どうでもするから學校へは成るべく出る事にしたいと思ふ。

諸縮刷の三四郎、それから、門合本の校正をやる人が必要だが君出来るか。安倍の方でも都合よければしたいといふ。或は半分づゝにしてもよいと考へてる、然し君に金の必要が非常にあるなら全部君に譲つてもいい、如何

一月三十日

金之助

耕 三様

一七〇三

一月三十日 金 牛込區早稻田南町七より 麴町區内山下

町一丁目一東洋協會内森次太郎へ

啓 藏山と藏澤^{*}の箱出来早速御届け下さいましてありがとうございます、まだ外に兩三個願ひたいのが寸法もありますから今度御出の時に又御面倒を願ひ

たいと思ひます 紙は受取りました其内何か書きませう 霽月は清水老人から明月の書をもらつてくれました私は代りに野田^{*}笛浦の書を送りました明月はうまいものですそれを表装をしかへなければなりません今度御目にかけたいと思ひます 以上

一月三十日

夏目金之助

森 圓月様

一七〇四

一月三十一日 土 後〇—1 牛込區早稻田南町七より

福岡市外東公園久保猪之吉へ

拜啓

鼻科學の下巻を御送り下さいまして難有頂戴致しました 頼江さんは昨年暮から御病氣で入院なさつたさうですが一向存じませんでした御病症も解りませんが不日退院といふ御書面故大した事もないだらうと存じて居ります時節柄精々御加養なさる様願ひます 先は

御禮旁御見舞迄 勿々頓首

一月三十一日

夏目金之助

久保様

一七〇五

一月三十一日 土 後0—1 牛込區早稻田南町七より

京橋區明石町六一松根豊次郎へ

小包にて印章到着 是は先日小さいぬめに拙字を認めた御禮と思ふ無石先生の御好意を感謝する旨よろしく貴兄より同君に御傳へ被下度候

斯ういふものを贈つても本人から禮の來ないのは物足らぬもの故どうぞ忘れないやうに無石君へ御傳を願ひます 風が吹いて寒くて困る 以上

一月三十一日

金之助

東洋城様

一七〇六

二月二日 月 後0—1 牛込區早稻田南町七より 本郷

區向ヶ岡彌生町三増田方林原(當時岡田)耕三へ〔はがき〕

君の事情も困難かも知れないが君の經濟は猶困難だらうと思ふ校正が足しになるならやつてくれ玉へ、いづれ春陽堂から何か云つて行くだらう

一七〇七

二月七日 土 後1—2 牛込區早稻田南町七より 芝區

三田四國町二、二號小宮豊隆へ〔はがき〕

啓十一日の市村座へは妻の僕原の兄をつれ行く君と合せてうづらを一つ取つたら如何 勿々

二月七日

一七〇八

二月八日 日 後10—12 牛込區早稻田南町七より 熊本

市内坪井町一二七奥太一郎へ